

①飯石地区の現状 - 人口・拠点施設

- 担い手組織

人口：1,498人
(2018年住民基本台帳)
高齢化率：42.74% (〃)

拠点施設：飯石交流センター
商店：あり
学校：なし
郵便局等の公共施設：あり
雲南市中心部への距離：
約10分(自動車)

雲見の里いいし

- ・平成30年度、役員・事務局体制を一新
- ・地区計画の更新時期を迎えている
- ・3つの専門部会を中心に活動を推進
- ・平和教育家として知られる永井隆博士の生家があり、交流センターを博士の顕彰施設にすることを検討している

②飯石地区の課題

- 地区計画の更新時期を迎えており、どのように地区計画を策定するかがテーマ
- 平成28年に閉校した旧飯石小学校校舎の利活用とセットで、地区計画を検討

③支援状況

地区計画の策定に関する支援

(地区計画策定委員会への支援)

- ・毎回の月例会合に出席して助言、会議運営方法などに関する助言等も行った

旧飯石小校舎活用策検討への支援

- ・月例定例会「『いいし小』みんなで考える会」に出席して助言

それ以外の支援

(地区と県との仲立ちなど)

④成果見込み

地区計画策定委員会発足：

- ・地区計画策定委員会が9月に発足
- ・毎回の話し合いの方式、スケジュール等に関し助言。

留意点

→あくまでも雲見の里いいし・地区計画策定委員会の意向を尊重し、中間支援組織が誘導をしない

旧飯石小学校校舎活用策が地区内決定：

- ・永井隆博士の顕彰施設兼、住民が気軽に寄れる場所を目指し、住民の手作りで整備していく事を決定

⑤残る課題

(1)旧飯石小校舎活用策の実施体制づくり

- ・活用事業等の実施メンバーを住民から選出(住民への理解促進の働きかけが必用)
- ・費用(雲南市との協議が必要)

(2)地区計画と旧飯石小活用策との関係

- ・旧飯石小校舎活用策以外の部分の地域づくりテーマの検討(地区計画の全体像の構築)

乗り越えるには？

旧飯石小校舎活用策の実施体制づくりについては、様々な場・会合等で活動をアピール(メディアも活用)し、住民の理解と関心を高めることが重要。
→すでに何人からか参加表明がある

地区計画づくりについては、他の学校閉鎖地域の地域づくり事例の調査・視察等を行い、視野を広げながら「飯石の全体像・未来像」を考えるとよい。

総括

- ◆閉校(平成28年3月)以来の懸案事項であった旧飯石小学校校舎活用策の方向性が決定
- ◆地区計画づくり：旧飯石小活用策以外の、地区計画の全体像の議論が必要
- ◆良いアイデアは地元にある。(中間支援組織はあくまでも補助的な支援にとどめている)